

# 町づくり しろやま

2020. 1  
No. 71

発行

戸坂城山学区  
社会福祉協議会  
戸坂大上1-4-22  
戸坂福祉センター内

【厚生労働大臣表彰】

## 城山の皆様による 赤い羽根共同募金活動が受賞

戸坂城山地区共同募金委員会 会長 塩谷 富士男

令和元年11月22日、全国社会福祉大会において、城山地区共同募金委員会が、厚生労働大臣の表彰を受けました。

これは、ひとえに城山地区の皆様が、長年にわたって、赤い羽根共同募金にご協力いただいた結果であります。

毎年、城山地区の各町内会の皆様を中心に、運動期間を10月1日から12月31日までの3ヶ月間に渡り、城山地区共同募金委員会がお願いした目標額にむけて、戸別募金運動をして頂きました。

赤い羽根共同募金金は、昭和22年の運動開始から昨年で、72回目をむかえました。

戦後復興の支え合いから始まった

運動が、今では「じぶんの町を良くするしくみ」として、続けられています。

現在の共同募金運動は、少子、高齢化、地域コミュニティの弱さなどで、募金額が減少傾向にあると言われていきます。

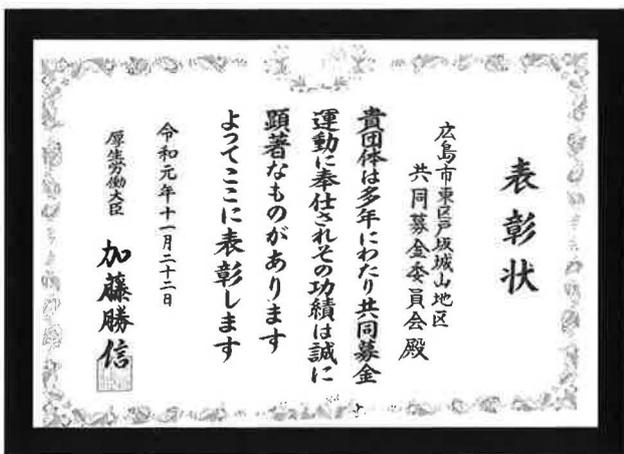
広島市全体の目標額1億円に対し、例年90%前後で推移している中、城山地区は、過去5年間の募金実績の平均額が目標額に対して、100%以上を達成いたしました。

この募金は、その実績に応じて、地区社会福祉協議会に助成金として配分されますが、城山地区社会福祉協議会の配分率は東区内社会福祉協議会の平均を12%超え、59.2%（平成30年実績）となっております。

その分、城山地区の福祉活動に役立たせていただいております。

これからも、この共同募金が地域福祉活動やコミュニティの再生など地域における課題解決のために役立つことを願っております。

今後とも、皆様の赤い羽根共同募金へのご理解とご協力をお願いいたします。令和元年城山地区共同募金委員会の厚生労働大臣表彰を報告いたしますとともに、城山地区の皆様感謝申し上げます。



# 電子メディアと

## 上手に付き合うために

広島市立戸坂城山小学校 校長 三田 真由美

「2020年は、5G元年。」様々な通信関連の会社のCMで耳にする言葉です。5Gとは、第五世代移動通信システムの略語です。このシステムにより、現在よりさらに大量のデータを高速で送受信できるようになるようです。5Gが普及すれば乗用車の自動運転や、ドローン、医療系技術やA-など、現在の最先端の技術がさらに進化するそうです。漫画や映画で描かれた夢のような未来も、現実のものになりそうです。わくわくした気持ちになります。

戸坂城山小学校でも、スマートフォン、タブレット、ゲーム機等の電子メディアが子どもたちの生活に急速に浸透しています。休憩時間に、子どもたちがオンラインゲームやYouTubeの話で盛り上がっているのをよく見かけるようになりました。最近では、電子メディアの長時間利用による生活習慣の乱れから、学習に集中できない子どもが増えているという残念なことも起きています。また、SNSやオンラインゲームでのやりとりでのトラブルについての相談も保護者から寄せられています。

スマートフォンなどの電子メディア機器は、とても便利な道具です。ゲームを楽しんだり、好きな音楽を聴いたり、動画を見たり、いろいろなことを調べたりなど、たくさんことができます。しかし、使い方を間違えると困ったことや怖いことに巻き込まれることがあります。このことをきちんと大人が子どもに教える必要のある道具でもあるのです。また、子どもだけではなく大人ですら、ゲーム依存・ネット依存となり、健康を害する恐れのある道具であることも知っておかなければいけません。

学校では、毎年五年生の児童と保護者を対象にして、スマホ携帯安全教室を行っています。今年度はそれに加えて、全学年の学級懇談会で、電子メディアとの付き合い方についての話をしました。ここでは、利用時間や利用方法について家庭でのルールづくりが絶対に必要であること、使い方を間違えると被害者にも加害者にもなること、最終的な責任は契約者である保護者にあることの三点について確認しました。また、広島市では、午後九時以降は、メール等の送信はしない、遅くとも午後十時には、電子メディアの使用をやめるという「テノオフ運動」に取り組んでいることも伝えました。今後益々重要なアイテムとなる電子メディアを子どもたちが上手に利用していけるようにするためには、大人が上手な付き合い方の見本を示す必要があると思います。

# ボランティアを募集しています

地域の高齢化が急速に進んでいます。歳を重ねると、これまで出来ていた事が出来なくなり、倒れたらどうしよう等々、不安を抱えて生活をされている方が多くなっています。このような方の手助けが少しでも出来ないかと、城山社協ではボランティアで下記のような活動を推進しています。

ところが、最近このボランティアの方が高齢になり、辞められる方が出るようになり、活動に支障をきたすようになりました。皆様方でボランティア活動に協力して下さる方はごさいませんか、出来る日に、出来る事をしてくだされれば結構です。ご協力をお願いします。

活動拠点は戸坂福祉センター2階「相談室」です。気軽に立ち寄ってみてください。

## 記

### 1. 高齢者等への配食（数名で対応）

毎月 第一、第三水曜日（祭日・休日を除く）  
午前10時～12時頃まで  
発注先から弁当をもちかえる  
その後手分けして高齢者宅に届ける

### 2. 電話当番（数名が交代で対応）

毎週 月曜日、水曜日（祭日・休日を除く）  
午前10時～12時  
高齢者等から電話の受付（相談など）

### 3. 高齢者の安否確認電話（数名交代で対応）

毎週 金曜日（祭日・休日を除く）  
午前10時～12時  
登録されている高齢者等に電話をかけて近況を聞く

### 4. 高齢者宅等の手助け

日時は福祉コーディネーターと協議して設定  
庭の草取り、庭木の簡単な剪定など



配食準備の状況



庭の手入の状況

### 電話連絡先

名称 ボランティアバンク「もみじ」  
毎週 月、水、金曜日  
時間 午前10時～12時  
電話 220-4189

令和元年度に表彰された皆様

(関係者分)

永年に亘り地域福祉活動に貢献され、受賞されました。

広島県社会福祉協議会会長表彰

令和元年10月21日



川手良介

(大上地区町内会)

広島市社会福祉協議会会長表彰

令和元年11月29日



石津都男

(数甲町内会)

広島市社会福祉協議会会長表彰

令和元年11月29日



森岡雅典

(百田親和町内会)

「65歳以上の5人に1人」

みなさんこの数字、ご存じですか?

近い将来、65歳以上の5人に1人が認知症になると言われています。認知症は誰にも起こりうる可能性があります。いつ自分や家族が、あるいは友人・知人が認知症になるかわかりません。

他人事として無関心であるのではなく「自分の問題である」という意識を持つことが大切です。

そんな中、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、私たちの地域でもいろいろな取り組みが進められています。

認知症の人と家族を、地域全体で見守り支えていくしくみをみんなで作っていくためにもまずは、1人1人が「認知症を正しく理解することから始めてみませんか?

認知症サポーター養成講座

☆認知症サポーターは何か特別なことをする人ではありません。認知症の人やその家族の「応援者」です。

☆受講料無料、認知症を正しく理解することができます。

☆受講後、サポーターの証「オレンジリング」が渡されます。



詳しくは  
戸坂地域包括  
支援センターへ!!  
TEL(082)516-0051



認知症カフェ

☆戸坂城山学区でも昨年7月"南2丁目にこここカフェ"がオープン!

また12月には"認知症けあカフェ"も開催されました。

☆認知症の人とその家族はもちろん、認知症について、もっと知りたい話したい相談したい支えたい!...そんな方どなたでも参加できます。

☆地域の皆さんが、それぞれの立場でどのように認知症の方を支えているのかを知ることができます。